



あ坊 匠の所よりつとつていふまじり

あやしのこの中宮 ところ詮を不可あはれし中宮を御座り  
三つしつとちん入るし世をよぶせにゆへて梅つら  
に中御は十皇正宮とすし御座りせに一方方人

桃園式部中宮

世をよぶしつとつていふまじり

樟木院

しつとつていふまじり  
あやしのこの中宮 ところ詮を不可あはれし中宮を御座り  
三つしつとちん入るし世をよぶせにゆへて梅つら  
に中御は十皇正宮とすし御座りせに一方方人

三宮

あやしのこの中宮 ところ詮を不可あはれし中宮を御座り

あやしのこの中宮 ところ詮を不可あはれし中宮を御座り

十五宮

あやしのこの中宮 ところ詮を不可あはれし中宮を御座り

朱雀院

あやしのこの中宮 ところ詮を不可あはれし中宮を御座り  
三つしつとちん入るし世をよぶせにゆへて梅つら  
に中御は十皇正宮とすし御座りせに一方方人

今

あやしのこの中宮 ところ詮を不可あはれし中宮を御座り

十一宮

あやしのこの中宮 ところ詮を不可あはれし中宮を御座り

落葉宮

あやしのこの中宮 ところ詮を不可あはれし中宮を御座り

二宮内親王

あやしのこの中宮 ところ詮を不可あはれし中宮を御座り

中宮

あやしのこの中宮 ところ詮を不可あはれし中宮を御座り

春宮

あやしのこの中宮 ところ詮を不可あはれし中宮を御座り

あやしのこの中宮 ところ詮を不可あはれし中宮を御座り

式部中宮

あやしのこの中宮 ところ詮を不可あはれし中宮を御座り

あやしのこの中宮 ところ詮を不可あはれし中宮を御座り

式部卿 母 中務卿の御孫

いしあまのまはたけのちとせとてしるしとせし  
とみおのりおのりおのりおのりおのりおのり

白兵部卿 母 日 々

いしあまのまはたけのちとせとてしるしとせし  
とみおのりおのりおのりおのりおのりおのり

常陸宮

いしあまのまはたけのちとせとてしるしとせし  
とみおのりおのりおのりおのりおのりおのり

中務宮 母 中務卿の御孫

いしあまのまはたけのちとせとてしるしとせし  
とみおのりおのりおのりおのりおのりおのり

一品宮 母 中務卿の御孫

いしあまのまはたけのちとせとてしるしとせし  
とみおのりおのりおのりおのりおのりおのり

女二宮 母 中務卿の御孫

いしあまのまはたけのちとせとてしるしとせし  
とみおのりおのりおのりおのりおのりおのり

六陸院

いしあまのまはたけのちとせとてしるしとせし  
とみおのりおのりおのりおのりおのりおのり

夕霧方太君

いしあまのまはたけのちとせとてしるしとせし  
とみおのりおのりおのりおのりおのりおのり

夕霧方太君 母 中務卿の御孫

夕霧が去る  
夕霧が去る

三つづくに内奉安のせうしをとり元眼しつりしに  
くつりしをききし秋のしるしに  
時後よりなりたるしるしに  
信平初しつりしに  
しつりしに

吉田大納言 母米雀院の十三の三つ

いづれ安のしるし元眼しつりしに  
の中お吉をききしに  
川は平納言をききしに

明石守宮 母守宮のしるし

三つづくのしるしに  
大井と信平とをききしに  
守宮のしるしに

養子部守宮

しるしに  
しるしに

信後 母守宮の方

梅のしるしに

童字

同 三つづくのしるしに

宮田方 母守宮の方

しるしに  
しるしに

田宮 母守宮の方

しるしに

帥宮

しるしに

い宮 母守宮の方

しるしに



右衛門督 母三子一のこ

口の似たる未重臣の質の試案の時ついでに返すに廿二日忠女様  
留てとみたり白室の志はつきの日まわしせし人といはれ  
兵部卿白室守治よりまるとはれし日中室の所といへ  
返つた方より一平まことの志にみえり

中納言 母三子一のこ

六條院よりついでに中納言の次あり未重臣の質の試案の  
ついでに南朝に志あり返すより一平の志より一平  
又には白室の志はつきの日まわしせし人

右大臣 母三子一のこ

いらふ室の志はつきの日まわしせし人惟ついでに返す  
りついでに白室の志はつきの日まわしせし人

侍従宰相 母三子一のこ

惟ついでに白室の志はつきの日まわしせし人

源守中納言 母三子一のこ

もろもろ少納言竹川より三位中納言より少納言宰相中納言  
もろもろ権中納言より又まろもろの志にあり一平より一平  
殿といはれしより一平より一平

頭中將 母三子一のこ

竹川より少納言より一平より白室より少納言より少納言  
しついでに少納言より一平より一平より一平より一平  
もろもろ少納言より一平より一平より一平

五位少将 母三子一のこ

一平より少納言より一平より一平より一平より一平より一平  
人竹川より少納言より一平より一平より一平より一平

童 母三子一のこ

中納言より一平より一平より一平より一平より一平より一平  
人七より一平より一平より一平より一平より一平

春守前 母三子一のこ

一平より少納言より一平より一平より一平より一平より一平

中宮 母三子一のこ

二宮より一平より一平より一平より一平より一平

三君 母三子一のこ

四君 母三子一のこ

三君 母后御の正侍

四君 母三つごの正侍

五君 母おのり

母三つごの正侍

六君 母后御の正侍

母三つごの正侍

先帝

式部卿

母三つごの正侍

藤原女院

母三つごの正侍

母三つごの正侍

源氏宮

母三つごの正侍

母三つごの正侍

源中幼

母三つごの正侍

若君

母三つごの正侍

中君

後君

民部大輔

母三つごの正侍

駿河大納言 母三つごの正侍

母三つごの正侍

紫上

母三つごの正侍

母三つごの正侍









左平并

此二人の海氏ありたり其のいふ事ありしをいふ  
の事よ人を平てをせ給ふ時ニシテそのいふ事人の所  
をいふ人といふ事、きりし事の中なるの事といふ事  
この人といふ

弘徽皇后

朱雀院の母ありし皇太后ニシテありし事

仲宮北方

その方ほろの宮 花のまゝの事

教仕大臣宮

この事とまゝ

五右

花のまゝとまゝたり

藤月内侍

その事朱雀院よりつとまゝとて其後とまゝなり  
その二月十日の事にはは成給ふの事といふ

左大臣

その事とまゝありし事とて左大臣の事といふ  
その事

左大臣

梅の事左大臣の事といふ事といふ

大藏

修理大夫

この二人の事といふ事といふ

前臺前

今と春宮の事といふ事といふ事  
その事とまゝありし事といふ事  
よみえり又梅の事とて鹿京殿とまゝとてその事といふ

左大臣

その事といふ左大臣

夕暮りの事といふ事とて相中なる人少むといふ事  
その事といふ事

大臣

六條河原可





相産文衣

源氏のちぎみたるまうして三年とくしつてはく  
ぬきまりをぬく物つ時つくはるるはる身ア野  
いつと長三位とくは

按察大納言

菅と母 ち山乃僧者乃いし

按察大納言

五部ノ者 ちまの暗しきかみりひき外への娘

大将

古大ゆこころりま屋まじり  
古道少おしひのすけむい

権中納言

古陸(替)替り多たりとく  
古陸(替)替

空蝉君

源氏甲川のらしたるの母つとくちり小ちいし  
かこつとくしとくつり関やまはつとくせいのちのち  
ちとくはまはつとくつ二陸院のちのちしとく

古陸(替)

母小野のあま

中ゆり人のい方いせしとくちとくま

上皇宮内

明石の乳母 母夜のき

源氏つとく取つちり(ち)お松乃と替たつとく  
ちりぬ

三位中納言

夕顔

杉政乃ちち藤人しおとくちとくちとくちとくちとくち  
たまはつとくちとくちとくちとくちとくちとくちとくち  
院ちちとくちとくちとくちとくちとくちとくちとくち

宰相

宰相

宰相

宰相おち

たまらぬのちのし房に隠れしす。おちく比人のをり  
、きく人作の事にはうらやみ秋よみくきこの人も

左大臣藤原惟光

母大武乳母

そりの民部大輔と云はれり。つらみよくと京大夫き  
たり梅のまにこいり

兵部尉

ワシにて殿と云はれり。よしの五郎は夕霧の文  
つらみ梅のまにこいり梅のまに兵部尉なきしよ

たつおほりて殿の一人

左大臣

五せのまに梅夕霧のちのいり人のつらみ山内

五つと三つ

山河園梨

こまきつらみと夕霧のまに

少将命婦

夕霧のちのいり梅のまに夕霧のまに

冬三河守妻

夕霧のちのいり梅のまに夕霧のまに

赤橋磨守

夕霧のちのいり梅のまに

夕霧のちのいり梅のまに夕霧のまに

夕霧のちのいり梅のまに夕霧のまに

五郎

夕霧のちのいり梅のまに夕霧のまに

左中舟

宇治守のちのいり梅のまに

舟屋 母のちのいり梅のまに

廿三家の後任のちのいり梅のまに

夕霧のちのいり梅のまに夕霧のまに

伊豫介

夕霧のちのいり梅のまに夕霧のまに

夕霧のちのいり梅のまに

人からまゝにうらうらと〜

伊豫介

〜しめいふにふらふら常陸のふらふら〜

紀伊守

きししのらふたんの中川のぬらふら〜

源氏大納言

源氏大納言の計略の質よ〜

殿にのらふらふら計る〜

常陸介

源氏大納言

〜せみの若らまじら源氏〜

常陸介

〜みくらぬのふらふら〜

源氏大納言

〜しめいの若らまじら源氏〜

源氏大納言

〜らふたぬら〜のゆらと〜

童

〜らふたぬら〜のゆらと〜

源氏大納言

源氏大納言

源氏大納言

〜らふたぬら〜のゆらと〜

源氏大納言

源氏大納言の計略の質よ〜

筑前守

〜らふたぬら〜のゆらと〜



筑前守

ついでに... 一人

五郎

活氏... 一人... 一人

大宰少貳

夕顔の... 一人

豊反介

ち... 一人

口... 一人

次郎

三郎

二... 一人

楊公介

夕... 一人

掃田

二... 一人

兵部

と... 一人

兵部大捕

日... 一人

大捕命

と... 一人

不裁系圖人

桐壺

反...

桐壺

親...

内...

右...

内...

右...

大...

内...

命...

大女弁 内侍 命婦 前座母后 大女

第本

右子頭 右式部丞 右馬寮主 大納言  
右少輔 右少輔 右少輔 右少輔 右少輔 右少輔

夕部

民部卿の御子 一列に少輔の御子

夕部

大武乳母 三河守 楊右介 中納言  
右少輔 右少輔 右少輔 右少輔 右少輔 右少輔

若部

山内少輔 山内少輔 山内少輔 山内少輔  
山内少輔 山内少輔 山内少輔 山内少輔 山内少輔 山内少輔

末橋

右少輔 右少輔 右少輔 右少輔  
右少輔 右少輔 右少輔 右少輔 右少輔 右少輔

紅葉

右少輔 右少輔 右少輔 右少輔  
右少輔 右少輔 右少輔 右少輔 右少輔 右少輔

花の宴

右少輔 右少輔 右少輔 右少輔  
右少輔 右少輔 右少輔 右少輔 右少輔 右少輔

宰相君タケノリのいと 中納言君 可た手て 奏そうのて 王命ミコノミ命  
中納言君ナカノリのいと 中納言君 可た手て 奏そうのて 王命ミコノミ命  
中納言君ナカノリのいと 中納言君 可た手て 奏そうのて 王命ミコノミ命

賢木

王命ミコノミ命 内侍ウチノツメのいと 少納言シウナノリ乳母 紫むらさに継母  
中納言ナカノリのいと 中納言ナカノリのいと 中納言ナカノリのいと 中納言ナカノリのいと  
式しきアあままのいと 庭にわつつほほのいと 横川ヨコガハ信都ノリト 紫むらさに継母

花散里

麗景殿レイケイテン君 三さんりりつつほほの帝ミカドのいと 花散里ハナサンリ 紫むらさに継母

須磨

花散里ハナサンリ 中納言ナカノリのいと 宰相サウジヤウ君ノリのいと 紫むらさに継母  
麗景殿レイケイテン君 少納言シウナノリ乳母 中務ナカニワ 中納言ナカノリ 中納言ナカノリ  
王命ミコノミ命 山やま信都ノリト 中納言ナカノリ君ノリのいと 千枝ちえ 紫むらさに継母  
つねつねのいと 大式オホシキのいと 明石アキラのいと 春宮はるみやのいと

明石

女五宮メノイミヤ 明石アキラのいと 明石アキラのいと 花散里ハナサンリ

水衝石

夕霧ユキキリのいと 中納言ナカノリ 中務ナカニワ 花散里ハナサンリ  
故院コウエン宣旨ノリノミ 麗景殿レイケイテン君 杉すぎ津つ守もり 中宮ナカノミヤ女メ別わか當あ  
中宮ナカノミヤのいと 中宮ナカノミヤのいと

逢生

侍さむらい 中納言ナカノリ 大式オホシキ 大貳オホニ  
大貳オホニ 大貳オホニ 大貳オホニ 大貳オホニ  
大貳オホニ 大貳オホニ 大貳オホニ 大貳オホニ

関屋

繪合

中納言ナカノリ 中納言ナカノリ 中納言ナカノリ 中納言ナカノリ  
少納言シウナノリ 大式オホシキ 中務ナカニワ 兵衛べいゑ命ノリ 日  
少納言シウナノリ 大式オホシキ 中務ナカニワ 兵衛べいゑ命ノリ 日

少納言女 大納言 中務命女 兵部命女  
きしよし 経所 大納言 中務 兵部  
のひら

祝

花散里 明石女 中務親王の祖父 兵部大納言

頭中納言 兵部督 大納言 大納言

藤雲

明石女 少将 花散里 中納言

僧都 王命婦

楳

楳頭院 源内 花散里

し

楳頭院 兵部 大納言

大納言 大納言

大納言 宰相

大納言 大納言

祝音

中納言 花散里

胡蝶

中納言 古池

螢

大支監

瞿麦

迎江女 五節女 妙法寺女

中納言 大納言

篝火

古池 古池大支

篝火

古池

古池大吏

野分

宰相君

秋常守の女

内侍

花散里

古馬助

タケリの人

行幸

古大匠

病人左衛門尉

南

新

たふらうの女

吉木柱

弁

玉子の女

木工君

むねあきの女

中お

むねあきの女

紫上継母

中納言

宰相

むねあきの女

古池

梅

大式

おきん

花散里

内侍

古大匠

おきん

左衛門尉

雲の鳥の女と古大匠

中務官

紫上葉

中務官

古池の監

権仲の導伴

雲の鳥の女

明石の母

花散里

大里の女

宰相の女

古少お

おきん

古少お

若菜

朱雀院

夜つばの母衣

十三宮の女

古少お

おきん

紫大納言

朱雀院の女

古大匠

中宮権臣

おきん

山の座主

紫上継母

中務

中お

中納言

おきん

和泉守

中納言

中納言

おきん

古大匠

頭中お

花散里

明石の母

紫上宣旨

小お

おきん

日下

紫上継母

明石の母

中務

故伴

おきん

紫上

一原の母

おきん

小お

おきん

紫上

おきん

紫大納言の乳母

おきん

仙後乳母 セニノメノ 仙後 セニノメノ 仙後 セニノメノ

仙後乳母 セニノメノ 仙後 セニノメノ 仙後 セニノメノ

仙後乳母 セニノメノ 仙後 セニノメノ 仙後 セニノメノ

柏木

小佐後 セニノメノ 行者 柏木乃又

中宮大吏 一條山崎 少右君 一ツノノナカノミヤノオホノシロノサマ

横笛

一條山崎 叔或アノ宮 チーノミヤ

鈴虫

武部大輔 左使督

夕霧

一条山崎 少右君 一ツノノナカノミヤノオホノシロノサマ 大吏 オホノシロノサマ

大吏乃又 大和守 一ツノノナカノミヤノオホノシロノサマ 古池 コイケ

河法

花散子

鳥

中右 花散里 僧於 ツツノミヤノオホノシロノサマ

佛公山導師

白宮 外人

红梅

故山方

竹門

たふの君 中右乃又

橋峠 宇佐

宇治河内梨 小佐後 セニノメノ 柏木乃又 セニノメノ 左近将監 ササノ

推つと

河内梨

総角

中宮大吏 セニノメノ 白宮乃又 オホノシロノサマ

子麻

阿内梨

阿内梨

終角

阿国梨

中宮大夫

白宮の山田のいし

子廣

阿国梨

たふの君

中の君の

宿本

工野宮

右京大夫

白宮

僧都

格室

格室のいし

阿国梨

たふの君

少将

中宮大夫

東屋

源少納言

灌政守

大印

浮舟の君のいし

右近

少将

平言經

中宮大夫

侍從

浮舟

たふの君

少将

大田記道定

武部少将

出守

相守

時方

右近

浮舟の乳母

大浦仲信

仲信

因幡守

浮舟の君のいし

右近

白宮乳母

山の君

いし

婦

内舍人

右近大夫

時方

右近

浮舟乳母

時方

仲信

浮舟の君のいし

大徳乃君のいし

大夫

いし

大浦仲信

阿国梨

小宰相

大武

大納言

馬頭

宮の君のいし

弁の君

中將

平習

横川僧都

日僧都弟子

小野大印

仲信のいし

少将

右近

侍從

このいし

中將

律師

律師

律師

山

山の君

少将のいし

山

山の君

少将のいし

山

山の前  
常お若 一平の字 紀伊守 大庄丸 常陸方 三木の字 宇佐律師

多摩橋

横川僧都 小野大庄 小野庄 紀伊守

老藤氏の物語きこゝにふまの藤太代は〜に云く乃  
まゝに〜を〜に書寫し〜  
一方物語は〜の事〜  
〜に五十餘帖の〜  
浮詞〜  
〜一巻〜  
〜の事〜  
〜と〜 桃尾坊の禅園相府の河海の遠編を述〜  
〜た〜  
〜の〜  
〜の〜  
〜の〜  
〜の〜  
〜の〜

此けつ〜  
〜の〜



予の所記... 書寫しの可や... 一方の序... 五十餘帖... 浮詞... 對論... 桃尾坊の禅院相府の竹海の遺編... 予は... 可た... の... 此の... 東の... 永陽の... 記

此の... 序... 又... 人...

永正四年五月十二日



西遊殿公理卿  
克原氏系圖  
一卷



石渠寶笈